

白河関の森公園 基本計画

概要版

2023年3月

白河市
産業部観光課



憩う・集う・学ぶ・働く
を創造する

グローバル コモンズパーク

市民・行政・民間の地域協働による
持続可能な公園づくり

自然と共に育む3つの活動プログラム

美しい里山など自然資源や白河の関をはじめとした文化歴史、
白河ならではの魅力を生かしながら、住民と共に育む交流の
場の創出、エコリーダーの育成を同時に行いながら、交流人
口の増加と定住に向けた活動プログラムを展開します

1. 白河関の森公園特有の自然を生かした 自然体験プログラム

春夏秋冬の自然を感じる ネイチャーゲームプログラム

幅広い年齢層に提供できる各種ネイ
チャーゲームプログラム



ガイアビレッジキャンプ

ツリーハウスやアースハウス(堅穴式空間)
など、自然を感じる総合キャンプ



奥の細道散策プログラム

奥の細道のルートに沿って行うガイド付き
の散策プログラム



2. フィールド・施設を活用した体験学習 (人材育成) プログラム

自然体験学習や歴史学習を通じた まちづくりワークショップ

白河の自然や歴史、里山などの文化を学
ぶ未来のまちづくりにワークショップ



環境まちづくりリーダー育成 プログラム

地域社会・自然環境・経済をつなぐ持続可
能な地域を創造するエコリーダーの育成



ツリーハウスクリエーター 養成プログラム

公園内に設置するツリーハウスの製作をクリ
エーター養成を兼ねて行う実践型プログラム



3. 公園周辺の農家や企業とタイアップした 継続体験プログラム

地元農家との連携による稲作体験

田植えから収穫までの継続的な稲作体
験を通じて、旗宿地区の魅力を発信しな
がら、地元農家、行政、地域との連携の
もと交流人口を増やすプロジェクト



白河独自のワーケーション プログラム

首都圏企業の人材×地元事業家とのコ
ラボによる地域課題の解決をテーマにワー
クショップを行うなど、白河独自のプログラ
ムを提供することで、都市企業と白河をつ
なぐプロジェクト



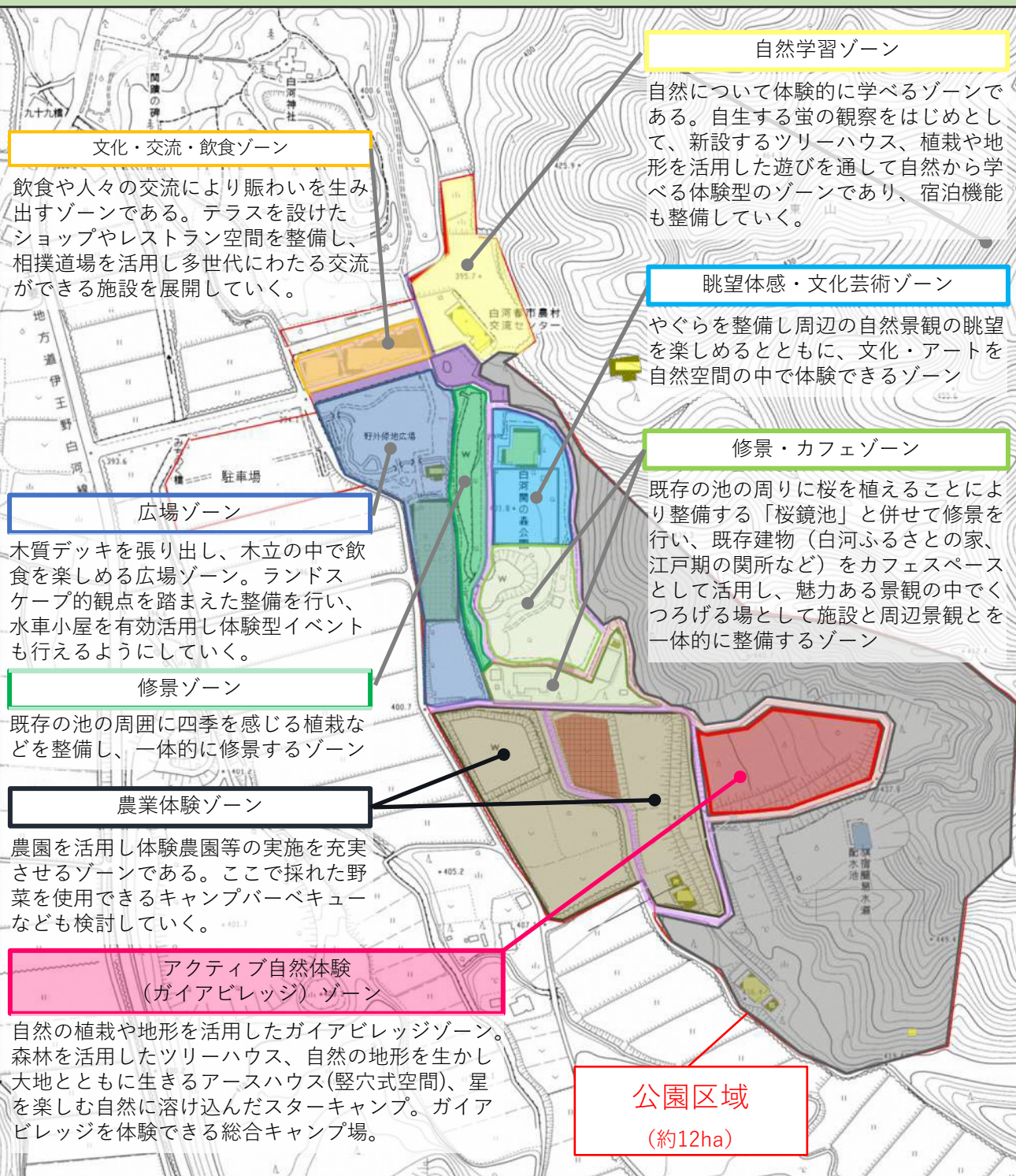
市民との共創から生まれる多彩なコンテンツ

新規の提案、市民の皆様の意向、既存施設の有効活用の視点から、関の森公園の魅力を引
き上げるソフト、ハード及び融合させたコンテンツメニュー案を見出しました

	ソフト			ハード			融合
	自然	学び	歴史	遊び	宿泊	食	コミュニティ ビジネス
新規提案	自然体験プログラム			キャンプ場			
	農業体験			ツリーハウス		オーガニックカフェ	
	里山体験			やぐら	グランピング	オーベルジュ	
				アースハウス			
住民意向	森林セラピー			バーベキュー		地産地消プログラム	
	奥の細道散策				防災拠点		
			白河の関詠会				
			公園および周辺地域の 歴史を学ぶプログラム		修学旅行 合宿	名産品販売	
既存施設利用				各種イベント開催			
						コワーキング ワーケーション	

地形や空間、豊かな自然資源の特性を生かす

白河関の森公園が有する地形や空間、豊かな自然資源の特性を最大限生かした体験や学びができるように8つのゾーンを設定し、文化・交流・飲食、自然学習、農業体験、アクティブな自然体験などをテーマとし、その魅力を作り込んでいく。

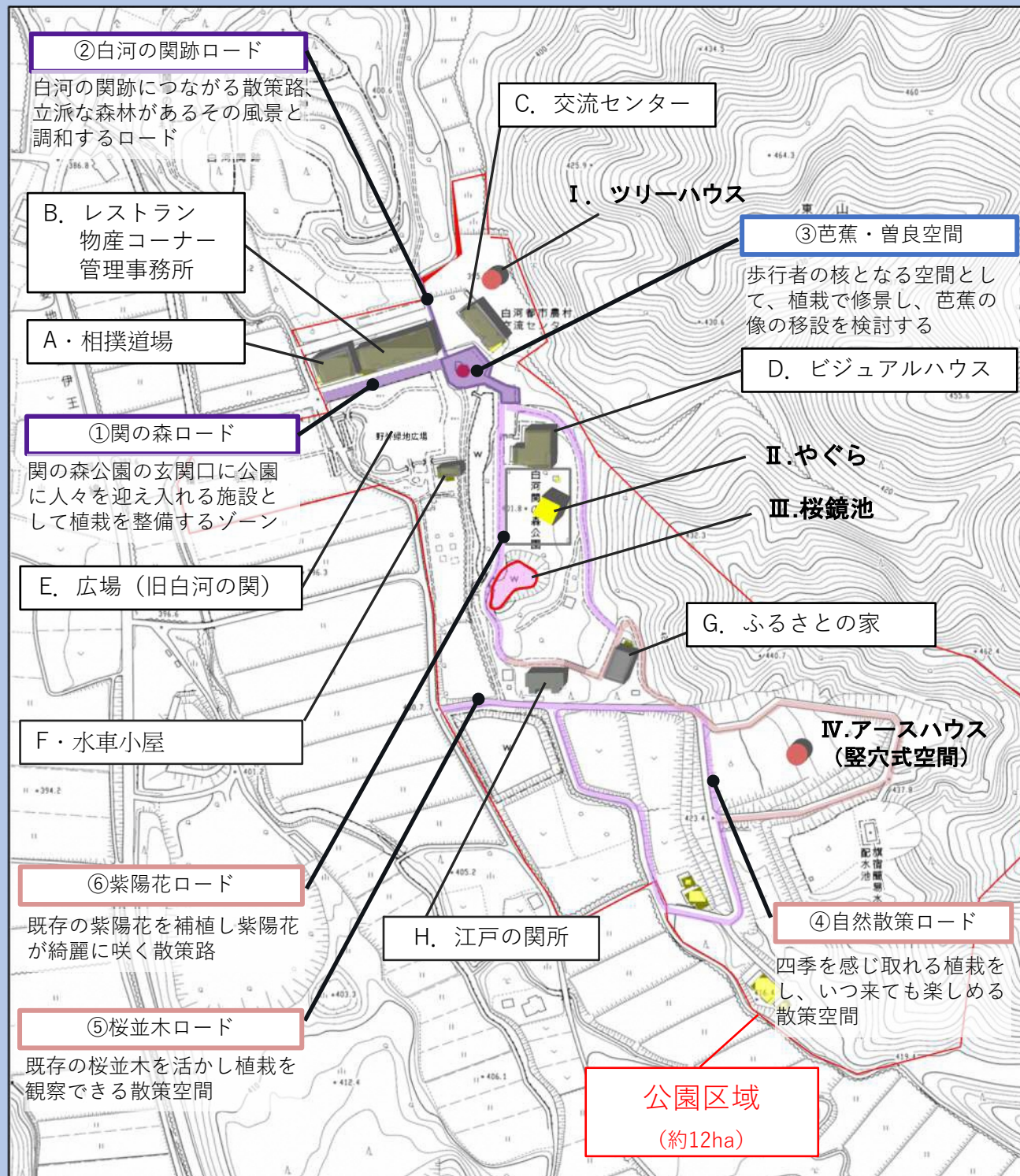


8つのゾーンの設定

白河関の森公園のゾーニングとして8つを設定する。各ゾーンをロード（道）がつなぎ、公園全体としての活用を促すとともに、新たにランドスケープの形成の視点を付加し再整備を行うことで、公園における魅力体験を有機的につなげていく。

各施設の特性をロードでつなぎ魅力を高める

各既存施設は、これまで各時代において必要とされた機能を、その時々で整備してきており、公園機能としての一体性が足りない状況である。このため、ゾーンと施設をロードによりつなぐことで、各施設の連携を考慮した機能整備を図っていく。



既存施設の活用と新たな施設の計画

既存施設が有する特性や価値を最大限に生かすための必要最低限のリノベーションを各施設に加えていく。さらに、公園の地形とゾーニングに配慮し、ツリーハウス、桜鏡池、やぐら、アースハウス（堅穴式空間）といった、新たな施設・機能を公園に付加し魅力向上を図る。

既存施設の特徴・課題と活用方針

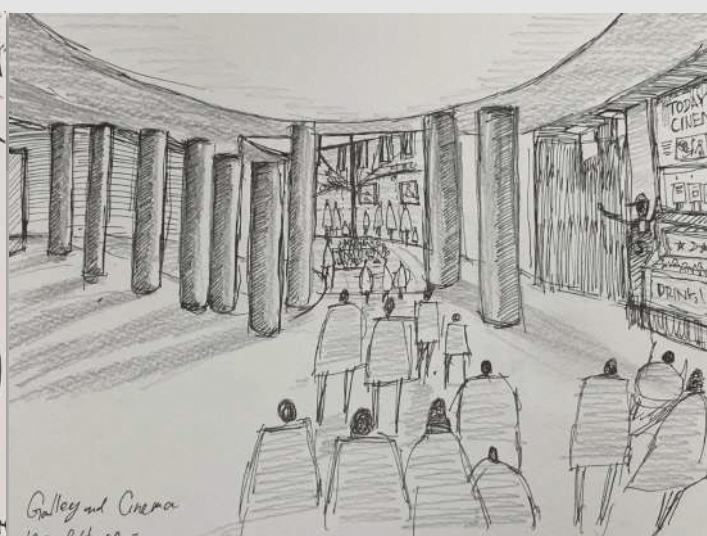
施設名称	施設写真	特徴	課題	方針	有効活用策	参考事例
A. 相撲道場		- 相撲道場として地域の人々の記憶に残る施設となっている - 大相撲・東関部屋が合宿で訪れる施設として活用されていた	バリアフリー化がなされていない。外壁補修がなされていない	相撲ニーズを調査の上、特化型の施設として周辺施設との連携も踏まえ再整備する	ピンホールマーケティングを活用した相撲道場の合宿施設としての活用等（周辺宿泊施設との連携）	- 工学院大学弓道場紫波町 - オガールプロジェクト：バレーボール（ソフト面の参考事例）
B. レストラン 物産コーナー 管理事務所		トップライトからの光が降り注ぐ木の大屋根が印象的な内部空間の四連の建築である	建物にアクセスするためのバリアフリー化がなされていない。内部の仕上げ材の一部補修が必要	白河の農産物と美食体験を求める都会人をつなぐショップやレストラン空間として活用する	- 白河の地域資源を加工し発信するショップ - 白河の農産物を味わえる地産地消レストラン	軽井沢ハルニレテラス
C. 交流センター		- 浴槽やシャワー、宿泊機能あり - 和室の大広間があり、建物裏には豊かな自然の景観が臨める	- 裏の自然景観が十分に活かされていない。 - 他施設との連携した活用方法が課題である	ICT設備、複合機、照明・机・椅子等の作業環境を整え、自然体験と共に快適に仕事ができる施設として活用していく	- ワーケーション施設 - 交流施設	- リゾワテラス蒜山高原 - 小田原市旧片浦支所（コワーキング） - 温泉宿ゲストハウス雷鳥（親子ワーケーション）
D. ビジュアル ハウス		美的な建築的空間特性を備えている	経年劣化が確認され、仕上げ材等の補修が必要である。閉鎖されており設備機器等の総点検が必要である	美的な建築的空間特性を尊重した改修を加え、公園の文化的価値を高める拠点施設として整備する	- 美術館、ギャラリー - 博物館、教育施設、展示空間	- 瀬戸内海直島のベネッセアートミュージアム - 地中美術館等
E. 広場 （旧白河の関）		都会にはない、豊かな自然を体験できるオープンスペースである。平場空間であり、多用途に活用が可能である	水道、電源等を導入することで、活用用途が広がる	都会にはない、豊かな自然を体験できる平場のオープンスペースを多用途に活用できる空間として生かしていく。	レストラン・物産コーナー・管理事務所との一体的活用	軽井沢ハルニレテラス
F. 水車小屋		水車が併設された、蕎麦打ち体験ができる施設である	- 公園内の各施設との機能連携を考慮する必要がある - 水車が故障している	環境学習に活かせる研修施設として活用する	- 水力に関する環境情報の提供 - 市民ワークショップ等の体験学習施設	- 調布市深大寺水車館 - 砺波市立砺波東部小学校
G. ふるさとの家		- 古民家を再現 - 釜戸や土間など趣のある施設	- 有効活用されていない - 人の行き来がほとんどない	木造・茅葺の古民家の空間的価値を再評価し生かしていく	- 古民家カフェ - 古民家ホテル	- ルパン信州上田店（パン・カフェ） - 蔵蔵（パン・カフェ） - 竹田城城下町ホテル（ホテル）
H. 江戸の関所		木造・瓦葺で軒が深く、趣のある建築である。	施設活用に際しての電気、水道、ガス等の導入と、改修時の消防法・建築基準法等の法適合に向けた課題	木造・瓦屋根の建造物としての空間的価値を再評価し活かしていく。	- 古民家カフェ - 古民家ホテル	- ルパン信州上田店（パン・カフェ） - 蔵蔵（パン・カフェ） - 竹田城城下町ホテル（ホテル）

「白河市の中心となる公園を目指して」

福島県白河市は、白河関跡や小峰城跡等をはじめとする豊かな観光資源に恵まれており、特に、昨年の甲子園における優勝旗の「白河越え」により、全国から大きな注目を集めることとなった。近年、政府はSDGsやカーボンニュートラルの政策を推進しており、東北においても、ゼロエネルギー公園や地域主体の持続可能なコミュニティデザインを実現していくことが期待される。本計画で導かれた基本計画の方向性を踏まえながら、地域主体のアクションプランを推進し、白河関の森公園のビジョンを構築していくことが望まれる。



白河関の森公園 基本構想策定委員会 委員長 風見 正三



「白河関の森公園基本構想策定委員 委員リスト」*敬称略

委員長	風見 正三	宮城大学理事・副学長・教授
委員	大森 泰之	旗宿自治会 会長
	斎藤 仁	白河関の森公園 園長
	小坂井孝博	古関行政センター 所長
	伊東 和雄	白河観光物産協会 主査
	小松 裕子	
	渡辺 紀子	
	畠山 里奈	
	緑川 喜文	
	坂本 恵	
	伊藤 裕美	



白河市役所 観光課

本庁舎2階 〒961-8602 福島県白河市八幡小路7-1

電話番号：0248-22-1111 ファックス番号：0248-24-1844